

Avidya on Spider's Web

蜘蛛の巣上の無明

電子の網目へと仮想化する蜘蛛手の街にて

アステイオン Asteion は、「都市」に由来する古代ギリシア語形容詞の中性形に淵源し、転じて「都会風の」さらに「洗練された」といった意味へと派生する。ところが二十世紀末以降の急速な電子技術の展開とともに、仮想現実 virtual reality が現実の都市空間を凌駕して、惑星地球の表層を覆い尽くすに至った。漢語ならば「経世済民」に依拠し、ギリシア語でも「家政」oikos に立脚していたはずの「実体経済」も、いまや金融の虚構の網の目に捉えられ、そのなかに埋没した。坪内祐三は『右であれ左であれ、思想はネットでは伝わらない』（二〇一七）との

稲賀繁美

（京都精華大学特任教授・
放送大学客員教授）

Shigemi Inaga

1957年生まれ。パリ第7大学博士号取得、東京大学・比較文学比較文化専攻単位取得退学。東京大学教養学部助手、三重大学助教授を経て、国際日本文化研究センター副所長、総合研究大学院大学・文化科学研究科・研究科長などを務めた。主著に『絵画の黄昏』『絵画の東方』『絵画の臨界』三部作のほか『接触造形論』などともに名古屋大学出版会。編著・共編著に *Vocabulaire de la spatialité japonaise* (CNRS Éditions)、『海賊史観からみた世界史の再構築』（思文閣出版）、『映しと移ろい』（花鳥社）ほか。近著に『矢代幸雄』（日本評伝選・ミネルヴァ書房）。

遺言を残したが、元来 Social Network System だったはずの SNS は、思想の彫琢や都市の洗練に結びつく道具となるどころか、この国では皮肉にも「会員制交際サイト」

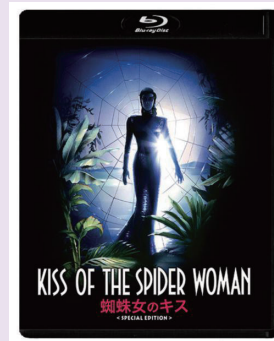


図1 蜘蛛女のキス<HDニューマスター・スペシャルエディション> 発売元：是空ノボニーキャニオン 販売元：ポニーキャニオン
KISS OF THE SPIDER WOMAN
©INDEPENDENT CINEMA RESTORATION ARCHIVE LLC 2000.
All Rights Reserved



図2 上村松園《焰：六条の御息所》1918年、絹本着色、所蔵：東京国立博物館
出典：ColBase (<https://colbase.nich.go.jp/>)

Social Network Serviceへと変質を遂げた。

地球表層を覆う電子情報網の記号交換は、人間の認知能力を遙かに凌駕する速度と質量とを獲得したが、それに伴い、書籍を媒体とした流通網は急速に衰退した。流通効率の向上だけが自己目的化し、「余計」な雑音の除去が「善」と短絡する。都市生活は「鋭く感じ、柔らかく考える」多様性を許す場であることをやめ、些細な規則の遵守に拘り、それに抵触する事態に、理由も問わず過敏な警告を発する相互監視体制を構築した——あたかもそれが万民の期待でもあったかのように。侃々諤々^{かんかんかくかく}のアゴラ Ayopó から成長を遂げたとされる民主的 democratic 論壇は Twitter とやらの吱ぎの裡に解体を遂げ、「オタク」の「お友達」仲間うちの党派ごとに分岐して硬直した約束事の教条が、鋭敏な批判感覚を鈍磨させる。学術界の「真実の探究」も今や post-truth の惰性の反復と仮想現実という想像界への逃避へと劣化を遂げた。

「都市の空気は自由にする」Stadtluft macht frei とは、一九世紀中葉にドイツ語圏の法学者が発明した表現とされる。だが過去にも交易都市を定期的に襲ってきた疫病は、

今世紀になってあらたな pandemic を地球規模で蔓延させた。Pan-demic は語源的に「凡て」の「民」を意味するが、

「万民」を差別なく襲うその「コロナ禍」は、人類に突きつける——電子情報網による地球表層制覇の「現実」が何を意味していたか、その「生物学的」な真実を。もとより自由交易は、ウイルスを瞬く間に世界中に撒き散らすために最適な環境。そして統御不能な病原体は、ヒトの営みが「新人世」Anthropocene に築き上げた地球環境でも仮想現実界でも、「自由」自在に増殖し、「都市的洗練」の内奥に浸潤を遂げる。——短く見積もっても、それがいわゆる「大航海時代」以降五百年の世界史構築の現実ではなかったか。梅棹忠夫の「生態史観」を川勝平太は「海洋史観」へと塗り替えたが、その実態は無法者の跳梁跋扈と伝染病の世界的拡散、私見を弄するなら「海賊史観」と呼ぶに相応しい。その先で、現今の電子情報網環境は「蜘蛛の巣」の比喩を頼りに、生態学的に再考するに値する。

ネット世界は今や憎悪や悪意、虚偽や怨恨の網に囚われた地球Ⅱ人類の姿の写し鏡。だが英「Economist」誌に

掲載された戯画は、蜘蛛を害虫と決めつける先入観に囚われている。思えば、かつて豪州由来の毒蜘蛛を外來危険生物として水際駆除する騒ぎが発生した。折からオウム真理教事件が発生していたが、科学哲学者の三浦俊彦は、毒蜘蛛退治と「邪教」一掃を訴える世論が、ほかならぬカルト自身の「聖域浄化」思想の二の舞いを演じていると批判した。件の毒蜘蛛は、その後どこへ消えたのか？

捕食者としての雌蜘蛛(図1)といえば、映画化もされて話題となった、マヌエル・プイグの小説『蜘蛛女のキス』が思い出される。繁殖行為の後、雄蜘蛛は多く雌蜘蛛の餌食となるが、小説は収監中の同性愛者の物語だった。carnaval カーニヴァルは謝肉祭だが、cannibalism 食人とも通じる。和服の意匠にも蜘蛛の巣が知られる。上村松園《焰》(一九一八)が有名だろうか(図2)。紫式部『源氏物語』葵の巻の一場面だが、葵上に対する六条御息所の生霊の嫉妬は、精神病理の真実を穿ち、そこには「宿命



図3 亡命者の心象風景 ヴィクトル・ユーゴー『蜘蛛の巣ごしにみるヴィアンデン』Victor Hugo, Vianden, Spider

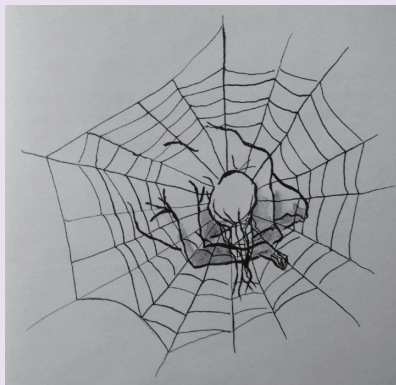


図4 脳内自生の牢獄としての蜘蛛の巣 / Georges Friedenkraftの俳句, Robert Chazel 原作: "L'araignée s'affaire/ Dans les fils imaginaires / que tu as tissés" 「君が紡いだ空想の巣糸のなかで、蜘蛛は自分の仕事にせわしく」

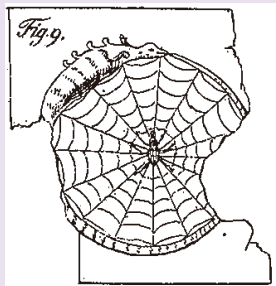


図5 ナーガ龍の円環のなかの迷妄 通称『Maya Spider』出典: N. Müller, Glauben, Wissen und Kunst der alten Hindus, Mainz, 1822



図8 塩田千春 《夢のあと》2016年、写真：福永一夫：トヨタ美術館展覧会「蜘蛛の糸 クモがつむぐ美の系譜——江戸から現代へ」2016年10月15日—12月25日より 提供：豊田市美術館 © VG BILD-KUNST, Bonn & JASPAR, Tokyo, 2022 G2940

の女」femme fataleの影も漂う。あたかも悪霊退散の加持祈祷に用いられた芥子の悪臭が、衣の文様の蜘蛛の巣に附着して伝播したかのような妖気が、画面に横溢する。政治亡命者の心象風景(図3)にも蜘蛛が登場する。ヴィクトル・ユーゴーが避難先のルクセンブルクはヴィアンデンで成した水彩だが、「蜘蛛の巣」ごしの、囚われの窓の彼方の青空が「雲」の自由へと視線を誘う。脳内自生



図6 『蜘蛛の糸』芥川龍之介[著]、遠山繁年[絵]
画像提供：偕成社

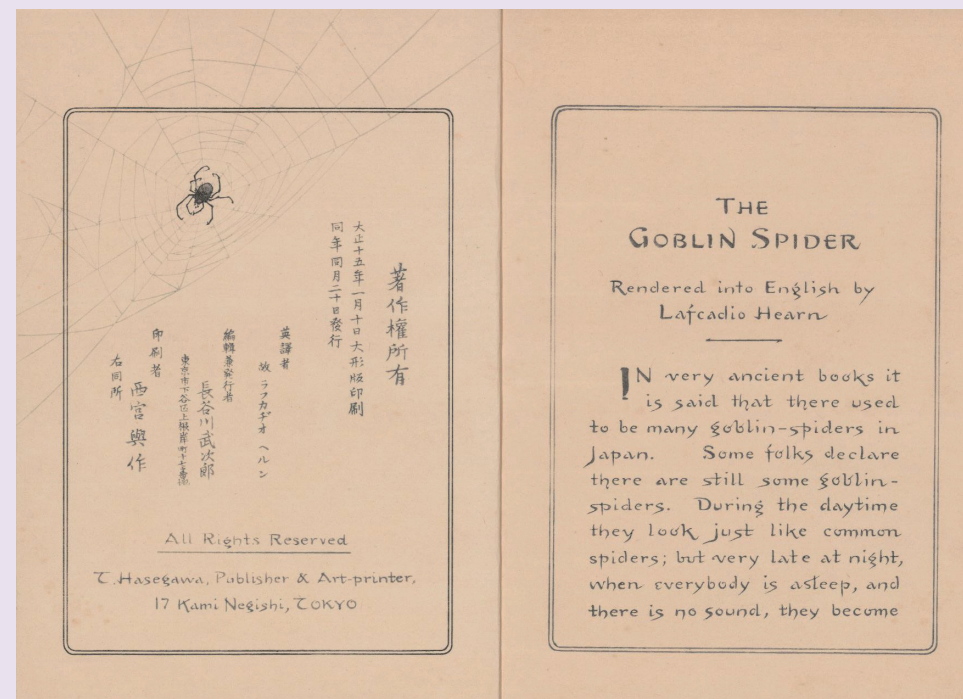


図7 The goblin spider (化け蜘蛛) Lafcadio Hearn Tokyo: T. Hasegawa, 1926 提供：東京女子大学比較文化研究所蔵 ちりめん本コレクション



図9 『アメイジング・スパイダーマン』プリキポスター ©Sabena Jane Blackbird/Alamy/amanaimages

の牢獄としての蜘蛛の巣(図4)は、筆者も親しいフランスの生物学者・詩人のハイカイから、「迷妄の網めぐらして待つ蜘蛛の餌食は誰ぞ 紡ぎ手 汝は」(拙訳)。自らの脳髓が編み上げた罠に閉じ込められた実存の不条理……。ここで思い出されるのが、ウロボロスのなかの迷妄(図5)。自らの尾を噛むナーガ龍が永劫回帰の円環世界を枠付け、その中にブラフマンに仮託された蜘蛛が迷妄「マヤー」の網を張り巡らす。『ムンダカ・ウパニシャッド』に見られる古くからの形象だが、その電子版こそ佐々木閑師の呼ぶ「ネットカルマ」。ネットに一度漏洩した「業」は永劫に消滅せず、無限に拡散を続け、世界中に災厄をもたらす。だが仏典では蜘蛛は悪者とは限らない。芥川龍之介の「蜘蛛の糸」は鈴木大拙が和訳した、ポール・ケイラス「因果の小車」の翻案(図6)。救いの糸が切れたのは利他を忘れた強欲の為、との教訓譚に変貌している。一方、蜘蛛の糸の上に連なって朝日を受け、震えながら輝く水滴に感動したのが、小泉八雲ことラファディオ・ハーイン(Lafadio Hearn)(図7)。この帰化作家はそこに華嚴的宇宙の具現を見たはずだ。個々の水滴に全世界が縮約

され、またひとつの水滴世界が他のすべての水滴に映り込む。その融通無礙な相照相映の荘嚴は、粘性性ある蜘蛛の糸に水滴が析出するからこそ、束の間実現される。

ギリシア神話の機織り女、女神ヘラと技量を競った増長ゆえに、蜘蛛の姿に貶められたアラクネの化身 avatar など、蜘蛛の織糸を巡る連想・夢想は、人類の記憶の総体に波及しつつ、際限なく広がってゆく。

偶然の運命の糸を可視化してみせる塩田千春の《夢のあと》(図8)ほかの作品や、ハリウッド映画「スパイダーマン」連作(図9)などへの言及は、若い世代の読者に託したい。複数世界 multi-universe に通じる地獄の釜の底が抜け、特異点 Singularity Point の到来を目前にした人類にとって、Web上の無明からの解脱は、今や焦眉の課題なのだから。

[注] (1) “DARK WEB” KAL’s cartoon, March 4th 2021

<https://www.economist.com/the-world-this-week/2021/03/04/kals-cartoon>

※写真の選定および版權取得に関して、学生諸君と編集部のご協力を得た。謝意を表する。その他、これはという図像・作品などあれば読者からご紹介いただけると幸いです。